

## 平成 17 年度（第 13 回）専門医資格認定試験の試験問題について

専門医制度委員会

委員長 杉本 寛治

平成 17 年 8 月 27 日・28 日に、平成 17 年度（第 13 回）専門医資格認定試験が実施されました。今後の制度改善と受験者の便に供するため、委員会は従来どおり、この試験で用いられた試験問題を公表致します。試験方法は、昨年と同じです。以下に筆記試験、口頭試験の全問題文を掲載致します。

### 1. 筆記試験問題

筆記試験は、例年どおり、A 問題、B 問題、C 問題から構成されています。

A 問題は、専門医として知っておくべき基礎知識に関する問題であり、本年度は、産業衛生学総論、労働衛生行政・法規、健康管理に関する基礎的知識等に関する領域から出題しました。

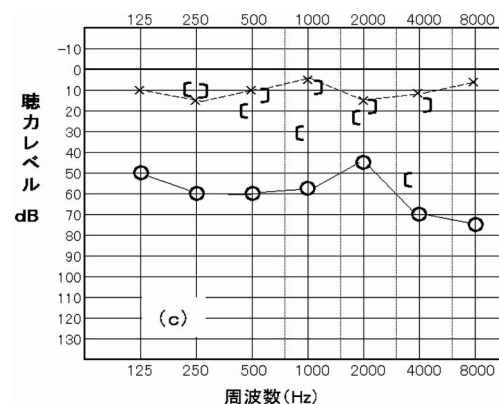
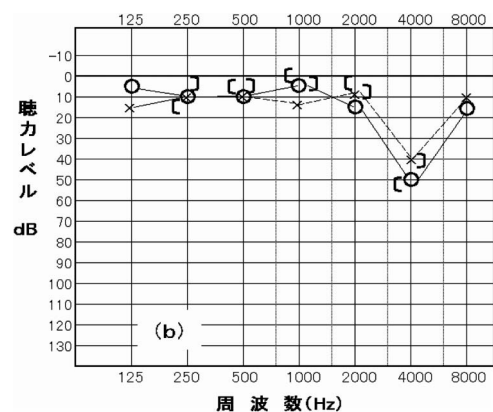
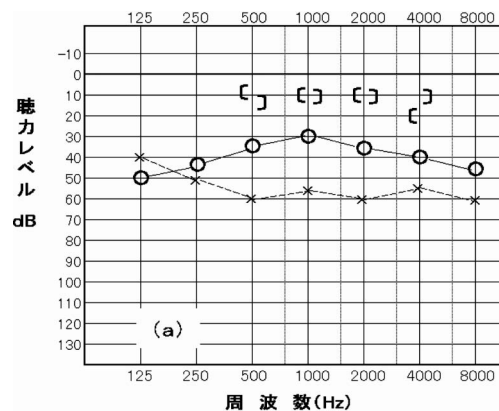
B 問題は、専門医として知っておくべき、より専門的な知識を問う問題です。専門産業医活動を展開するために具備しておくべき、より高度な知識に関する問題で構成されています。なお、本年度も、出題 5 問中 3 問を選択して解答する形式を採用しました。

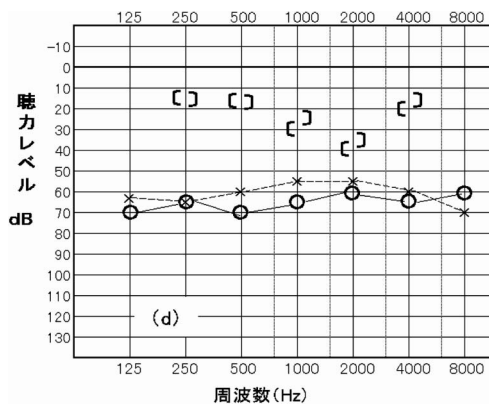
C 問題は、産業医活動を展開する上で必要なより高度な知識、さらにはそれらの知識をもとに、問題を解決する能力を評価することを目的とした設問としました。出題 5 問中、得意とする領域の 2 問を選択して解答する形式としました。

A 問題：全ての問いに答えなさい。（各問 4 点）

- 健康配慮義務について簡単に述べなさい。
- 総括安全衛生管理者を選任しなければならないものに○を付けなさい。
  - ( ) 労働者数 150 人の運送業
  - ( ) 労働者数 200 人の製造業
  - ( ) 労働者 200 人の鉱業
  - ( ) 労働者 250 人の卸業
- 「障害者の雇用の促進等に関する法律」に定められている障害者雇用率について簡潔に説明しなさい。
- 労災保険の給付の種類をあげなさい。
- 労働安全衛生規則では、どのような場合に衛生教育を行うこととされているか、箇条書きにしなさい。
- 労働安全衛生法で定められている一般健康診断のうち、雇い入れ時の健康診断、定期健康診断を除く 4 つを列挙しなさい。
- 雇い入れ時の健康診断の対象者をあげなさい。
- 許容濃度と管理濃度の違いについて説明しなさい。
- 防毒マスクを着用した際の漏れを判定する方法を説明しなさい。

10. 下記のオーディオグラムで、騒音性聴力低下の可能性もっとも高いのはどれか。





B問題：5問中3問を選択して答えなさい。(各問10点)

- 有機溶剤の生物学的モニタリングについて
  - 有機溶剤と尿中代謝物との組み合わせで代表的なものを3つあげなさい。
  - 生物学的モニタリングで試料採取時期に関する注意点を述べなさい。
  - 測定前日および当日、曝露労働者に対して行う注意点を書きなさい。
- 長時間労働と精神疾患の労災認定との関連について、知るところを説明しなさい。
- じん肺法施行規則(2003年)で改正された点の概要を述べなさい。
- 派遣労働者の健康管理について、その問題点をあげなさい。
- 小規模事業場産業保健活動支援促進事業(産業医共同専任事業)に関し、対象事業者、助成金の支給期間を含む制度の概要を説明しなさい。

C問題：5問中2問を選択して答えなさい。(各問15点)

- 1ヶ月前に係長に昇進した男子社員(40歳)の様子がおかしいと、同じ職場の作業員から申し出があった。話を聞いてみると、昇進後1ヶ月くらいがんばって仕事をしていたが、ここ1週間ほどひどく元気がなく、また、「自分には能力がなく、業績があがらない」とこぼしているとのことであった。産業医としてどのように対処するか、あなた自身の担当している職場を例にして論じなさい。なお、職場および職種の詳細は企業名が特定できない程度のもので可とします。
- あなたが産業医として勤務する事業所の製造現場の従業員が、金属の切子が目に入ったとして診療所を受診した。勤務中の出来事であり、上司や安全担当者に連絡をしようとしたところ、本人が強く抵抗し、絶対に報告しないで欲しいと訴えた。このような場合、産業医であるあなたはどのような対応をしますか。
- ある精密機器製造工場の嘱託産業医をしています。前回の職場巡視で健康障害に関する事項について指摘しましたが、まったく対策がとられていませんでした。産業医の勧告権の活用を含めて、どのように対応すべきかについて記しなさい。

- 人事労務担当者から、メンタルヘルス対策におけるセルフケアの推進の一環として、週1回臨床心理士を招いて相談室を開設したいという提案があった。これに対して、前向きに考える方向で、産業医として助言する事柄を列挙しなさい。
- 金属加工工場の専属産業医を努めているあなたに、職場における腰痛予防対策の計画を立案して欲しいとの依頼があった。どのように対処するか、具体的な活動内容も含め、考えを述べなさい。

## 2. 口頭試験問題

口頭試験では、産業医に必要とされる個別の知識と関連領域の知識との整合性や総合性を試験するとともに、専門医に要求される産業医経験の程度、問題解決能力、総合的評価能力、企画力、対象の観察力、指導性、協調性を評価することを目的としました。

【A1 口頭問題】、【A2 グループ討議】、【B 課題発表】の3種類の口頭試験が、5名のグループ4組で実施されました。

### A1. 口頭試問：基礎知識を問う問題

- 心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援について知るところを述べなさい。
- 産業保健活動を実施する上で、個人情報保護の観点から注意すべき点について述べなさい。
- 一般健康診断が6ヶ月以内ごとに1回必要となる業務を列挙しなさい。
- 労働安全衛生法に定められた「事業者が講ずべき措置」の主な内容を述べなさい。
- 健康管理手帳が交付される条件について述べなさい。
- 企業の社会的責任(CSR)と安全衛生の関係について述べなさい。
- 健康診断を外部の労働衛生機関に委託することになりました。その選定において留意すべき点について、具体的に述べなさい。
- 産業保健におけるメタボリックシンドロームの意義について述べなさい。

### A2. グループ討議

- 産業医として勤める事業場の従業員の中に、「自分の健康上のプライバシーを会社に知られたくないので、健康診断は受けたくない、十分に健康であることは自分が保障する」と主張し、健康診断を受けない従業員がいます。どのように対応すべきか、論じてください。
- ある製造現場では、派遣や請負などの社員以外の作業員(社外員)が多く働いています。社外員はとくに有害な職場で作業していることが多いですが、その実態はなかなかつかめません。このような状況を打開するために、事業場としての総合的な安全衛生対策の必要性が叫ばれています。事業場としてどのような対策が必要かについて論じて下さい。

3. 従業員1,000人の製造事業場では、従業員の高齢化（平均年齢：43.5歳）が進み、体力の低下によると思われる様々な微細事故が認められるようになりました。そこで、従業員の健康の保持増進に努めるために、THP活動として健康測定を行うことになりました。健康測定におけるリスク対策を検討してください。

#### B 課題発表

1. 従業員1,500名の輸送用機械器具製造業では、繰り返し作業による腱鞘炎や手根管症候群などの疾病が多発していました。この疾病を減少させることを目的に工場長を委員長とする対策プロジェクトが発足しました。産業医は副委員長として参加することになりました。初会議で今後の対策のあり方について10分間でプレゼンテーションを行ってください。

2. ここ数年、健康増進対策の強化、メンタルヘルスや過重労働対策の推進により、産業保健活動が多岐にわたるようになってきました。健康診断の機会を最大限利用して情報を収集することを前提に、新たな問診票を作成することになりました。その内容の骨子および利用上の注意点について、安全衛生委員会において10分間で説明してください。

3. あなたは、製造業の産業医です。1975（昭和50年）年頃に建築された工場を解体し、建て替えることになりました。解体・立て替え作業を委託する者としてはどのような安全衛生上の対策が必要となるかについて、安全衛生委員会において10分間で説明して下さい。

4. あなたは従業員2,000名のIT関連企業の産業医です。その企業では、裁量労働制を可能な職種すべてに導入し、給与制度では業績評価による変動部分を大幅に広げることを予定しています。この変更に関しては、従業員の同意も得られており概ね好意的に受け入れられていますが、人事担当役員より健康障害などの発生リスクが指摘されました。産業保健の観点から予想されるリスクと対策について人事担当役員も出席する人事部内会議において10分間で説明してください。

5. 従業員1,000名、専属産業医1名、保健師2名の某製造業では、喫煙率が60%を超えており、分煙もままならない状況でしたが、非喫煙者の工場長が着任したのをきっかけとして、喫煙対策の気運が高まりました。工場長から産業医に喫煙対策の支援をして欲しいとの依頼がありました。安全衛生委員会で10分間のプレゼンテーションを行ってください。